

大カ平田子

伊波カマ (1889・M22) 字伊良皆 (01:13)

平田子でいる人お、田あ 耕 しんしえーたんでいしが、此処んかいもーち。あんさくとう 敵 えな一、「平田子でいしえー何処ん居が」んちゃくとう、「あねつ、此処なかい居ん」でい、牛なか田る引かすたんでいしが、田る引かすたんでいしが、「此処なかい居んでー」でいな一、平田子い言みそーちゃくとう。

あんさくとう、「出じてい来う」んちゃくとう、「い一、出じてい来んで」んち。ちゃっぴぬ牛やたんでいしが、すぐ田ぬ真中とーてい牛え引つ立ていやーに、畦んかいぶっていかちゃくとう。

あんさーに、敵 えよ一、「はーくれ一、容易ならんぐてー持つちよーさや一」んち、また飛ん出じや一に。

田ぬ土手んかいすぐな一ちゃびぬマーイサーやさ。うれーな一、私た一若さいね一山から来い、薪おうりんかいかきてい下るちゃいかみたいたさ。イーヌカーぬ其処なかい在さ、石え今ん。

うりんな一、しぐ自分一人さーに取や一にぶっていかちゃくとうやつ。「アキサミヨ一！平田子でい言みしえーる人お、ちや一る大武士がやみしえーら一わ分からん。うっぴぬ牛ん取っつていぶっていかすい。またうっぴぬマーイサーん取っつていぶっていかすいや。は一な一、くぬ人お怖たむんやっさ一」んち、敵 え戻いんそーちゃんでいる 話 る聞ちゃんで一。

【共通語訳】

平田子という人は、ここ伊良皆に住むようになってからは畑仕事をしていたそうだ。ある時、牛に犁を引かせて田を耕していたら、敵がやって来て、「平田子というのはどこにいるか」と言ったので、「おお、ここだよ。ここにいる」と、平田子は返事をしたわけだ。

そしたら、「出てこい」と言われたので、「ああ、今、行くよ」と。使っている牛はとても大きな牛だったそうだが、平田子は田の真ん中で、その牛を捕まえて引っ張って、ドスンと畦に放り上げた。

それで、「こいつは、ただならぬ力の持ち主だ」と思っている敵の前に、平田子は田から飛び出てきた。

田の土手にはとても大きな黒石があるけどね。その石は、私たちが若い頃、山での薪取りからの帰り、その石を利用して薪を頭上に載せたり下ろしたりしていたんだがね。その石はまだイーヌカー（上又井泉）の所にあるよ、今も。

その石を平田子が、一人で取って放り投げたものだから、「なんとまあ！平田子という方はどれほど力の強い武士なのか分からない。こんな大きな牛を掴まえて放り投げるし、またこんなに大きな石も取って放り投げるんだから。ああもう、恐ろしい人だ」と、敵は戻って行かれたという話を聞いたんだよ。